

Press Release

2023.11.5

青木陵子、qp、工藤麻紀子

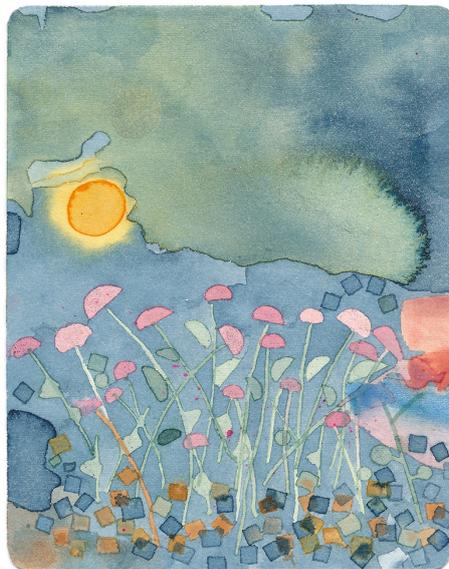
「精霊に捕まって倒れる」

2023年11月25日(土) - 12月24日(日) 11:00-19:00 月火祝 休廊

タリオンギャラリーでは、qp との共同企画による展覧会「精霊に捕まって倒れる」を開催いたします。是非ともご覧下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

本展覧会名は、装丁に qp の絵が用いられた同タイトルのノンフィクション（アン・ファディマン著、忠平美幸ほか訳『精霊に捕まって倒れる』）に由来します。原著では、難民としてラオスからアメリカに移り住んだモン族の一家の少女がてんかんを患い、その治療過程でのモン族の両親とアメリカの医療従事者との間における、文化や世界観の衝突や葛藤が描かれています。「精霊に捕まって倒れる」とは、てんかんの発症を指すモン族の言葉であり、彼らにとってその発作は、他者には見えないものを感じとる力がある証拠であるとともに、見えない世界に旅立つための必要条件とも考えられています。西洋文明にとっては治癒すべき対象である症状は天からの贈り物でもあり、ただ苦しく辛いものではなく、かけがえのない恩寵でもあるとされます。

身近な生命の素描と流動的な線や色面をつなぎ合わせ、ドローイングや立体、インスタレーションを制作する青木陵子は、日常生活と隣り合いながら見過ごされがちな、ものをつくるという営みの中にある記憶や観念を作品のなかに展開しています。イラストレーションを含めた装飾美術、写真、アニメーションなど多様な活動を展開してきた qp は、近年は小さな紙面にスポットなどを用いて水彩絵具のしずくを落とし、具象的なモチーフや幾何的なユニットの構成からなる絵画に取り組んでいます。そして、鮮やかな色彩と構成、朴訥かつ緻密な筆致によって、生活の場所や記憶と突飛なイマジネーションが一体となった絵画を描く工藤麻紀子は、多様な構図と視点からなる風景と人物が、ひとつの情感のなかに共振するような夢想的な光景を描き出します。本展では、人々にとっての恩寵とはなにか、痛みを受けたものが放つ光や、医術のとなりにある美術についても焦点が当てられます。どうぞご期待ください。



qp | 精霊に捕まって倒れる 10月1日 | 紙に水彩 | 15x11.8cm

青木陵子 Ryoko Aoki

1973 兵庫県生まれ
1999 京都市立芸術大学大学院 ビジュアルデザイン科修了

身近な生命の素描と流動的な線や色面をつなぎ合わせ、日常生活と隣り合いながら見過ごされがちな、ものをつくるという営みの中にある記憶や観念をドローイングや立体、インスタレーションに展開する。

主な個展

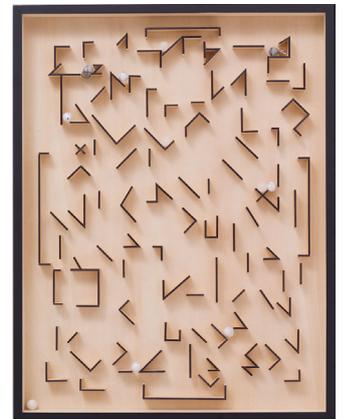
- 2020 「変化する自由分子の WORKSHOP」
ワタリウム美術館(東京)伊藤存との個展
- 2018 「Ryoko Aoki and Zon Ito」
Yamamoto Keiko Rochaix (ロンドン)伊藤存との個展
「三者面談で忘れてる NOTEBOOK」Take Ninagawa(東京)
- 2011 「みどり色のポケット」Take Ninagawa(東京)
- 2010 「ワイルドフラワーのたね」On Sundays(東京)
- 2009 「Camp」Konrad Fischer Gallery (デュッセルドルフ)
「オブジェクト・リーディング」フォイル・ギャラリー(東京)
- 2007 「Ripples」Nicole Klagsbrun (ニューヨーク)

主なグループ展

- 2024 「恵比寿映画祭 2024」東京都写真美術館(東京)伊藤存との出展
- 2023 「15」Take Ninagawa(東京)
「ケアリング/マザーフード:「母」から「他者」のケアを考える現代美術」
水戸芸術館現代美術ギャラリー(茨城)
- 2022 「視覚トリップ展」ワタリウム美術館(東京)
- 2021 「日常のあわい」金沢 21 世紀美術館(金沢)伊藤存との出展
「SOUTH SOUTH 東京」Take Ninagawa(東京)
- 2020 「コレクション 1: 越境する線描」国立国際美術館(大坂)
- 2019 「Reborn-Art Festival 2019」網地島(宮城)伊藤存との出展
- 2018 「国立国際美術館コレクション: 美術のみかた 自由自在」
豊橋市美術館(愛知); 福岡県立美術館(福岡)- 2019
「現代アートの宝箱 OPAM 利岡コレクション」大分県立美術館(大分)
「Public Art Research Center 8 [PARC8: 橋をかける]」札幌駅前通地下
歩行空間(北海道)伊藤存との出展
「ヘレン・アット・ザ・マウンテン」てつおのガレージ(栃木)
「181 枚の記憶 - 高松市美術館特別展の歩み -」高松市美術館(香川)
「10th Anniversary」Take Ninagawa(東京)
- 2017 「In Focus: Contemporary Japan」ミネアポリス美術館(ミネソタ州)
「Post-Formalist Painting」駒込倉庫(東京)
「Reborn-Art Festival in Tokyo」ワタリウム美術館(東京)伊藤存との出展
「Reborn-Art Festival 2017」石巻(宮城)伊藤存との出展
「コレクション - 風景表現の現在」国立国際美術館(大坂)
「椿会展 2017- 初心 -」資生堂ギャラリー(東京)
- 2016 「現代地方譚 4 アーティスト・イン・レジデンス須崎」
すさき まちかどギャラリー/旧三浦邸(高知)
「Location, Location, Location」Marc Foxx Gallery (ロサンゼルス)
「トレッドソン・ヴィラ・マウンテン・スクール 2016」statements(東京)
「椿会展 2016- 初心 -」資生堂ギャラリー(東京)
「囚われ、脱獄、囚われ、脱獄」statements(東京)



「偶然のエピソード」
大きな部屋の中にいるかと思っていたが、
小さな部屋の中にいたのかもしれない | 2021
「日常のあわい」金沢 21 世紀美術館での展示風景
(2021) | 撮影: 来田猛



内と外のゲーム | 2022 | 木製フレーム、石
42×33×3cm | 撮影: 岡野圭



自分が核であるのか、外皮であるのか | 2018
紙に水彩 | 40.5×32cm | 撮影: 岡野圭



もう一人の私はどこへ行ったのだろうか? | 2018
ミクストメディア | 27.5×35×6.2cm | 撮影: 岡野圭

qp

1979 兵庫県生まれ
2002 大阪芸術大学芸術学部映像学科卒業

イラストレーションを含めた装飾美術、写真、アニメーションなど多様な活動を展開。近年は小さな紙面にスポットなどを用いて水彩絵具のしずくを落とし、具象的なモチーフや幾何的なユニットの構成からなる絵画を主に描いている。

主な個展

- 2023 「花の絵」Alt_Medium(東京)
- 2022 「紙の上の音楽」Alt_Medium(東京)
「2040年11月10日は土曜日である」RC HOTEL 京都八坂(京都)
- 2020 「明るさ」Alt_Medium(東京)
- 2019 「セルヴェ」パーブルームギャラリー(神奈川)
- 2012 「私たちは夜です」Black bird White bird(京都)
- 2011 「残す」はちどり(東京)
- 2010 「頭部について」東中野徒歩一(東京)
- 2008 「灯台へ」新宿眼科画廊(東京)
- 2007 「それを見ている」ガーディアン・ガーデン(東京)

主なグループ展

- 2018 「パーブルーム大学附属ミュージアムのヘルスケア」
常陸太田市郷土資料館梅津会館(茨城)
- 2017 「パーブルーム大学 尖端から末端のファンタジア」
ギャラリー鳥たちのいえ(鳥取)
「恋せよ乙女!パーブルーム大学と梅津庸一の構想画」
ワタリウム美術館(東京)
- 2016 「X会とパーブルーム」 もりたか屋(福島)
- 2015 「パーブルーム大学物語」 ARATANIURANO(東京)
- 2014 「パーブルーム大学II」 熊本市現代美術館 GIII(熊本)
「パーブルーム大学」 山下ビル(愛知)
「夏と画家」 ARATANIURANO(東京)
- 2013 「であ、しゅとうるむ」 市民ギャラリー矢田(愛知)
- 2012 「マゼンタ色の友だち」 waitingroom(東京)
「100年あとの世田谷」 生活工房ギャラリー(東京)
- 2011 「イコノフォビア-図像の魅惑と恐怖-」
愛知県美術館ギャラリー(愛知)



精霊に捕まって倒れる 10月4日
2023 | 紙に水彩 | 21x14.4cm



紙の上の音楽 3月14日 | 2022 | 紙に水彩
11.2x14cm



個展「紙の上の音楽」Alt_Mediumでの展示風景(2022)



明るさ 3月6日 | 2020 | 紙に水彩
10.6x14.9cm

工藤麻紀子 Makiko Kudo

all images below
©Makiko Kudo, courtesy of Tomio Koyama Gallery, Tokyo

1978 青森県生まれ
2002 女子美術大学芸術学部絵画科洋画専攻卒業

鮮やかな色彩と構成、朴訥かつ緻密な筆致によって、生活の場所や記憶と突飛なイマジネーションが一体となった夢想的な風景を描き出す。

主な個展

- 2022 「影の色なに色」小山登美夫ギャラリー天王洲（東京）
「市制 90 周年記念 工藤麻紀子展 花が咲いて存在に気が付く
みたいな」平塚市美術館（神奈川県）
- 2020 「空気に生まれかわる」小山登美夫ギャラリー（東京）
フィリップス東京（東京）
- 2016 小山登美夫ギャラリー（東京）
- 2015 Wilkinson Gallery（ロンドン）
- 2013 8/ ART GALLERY/ Tomio Koyama Gallery（東京）
- 2012 Wilkinson Gallery（ロンドン）

主なグループ展

- 2023 「DMZ Exhibition: Checkpoint」坡州市 & 漣川郡（韓国）
「ceremony ミヤ・アンドウ、鬼頭健吾、工藤麻紀子、ヴィック・ムニーズ」まえばしガレリア Gallery 2（群馬）
- 2022 「済南国際ビエンナーレ」済南市美術館（山東省、中国）
「Under Current サテライト展」N&A Art SITE（東京）
「Under Current」宝龍美術館（上海）
「Unnatural Nature: Post-Pop Landscapes」
Acquavella Galleries（パームビーチ、ニューヨーク）
- 2021 「萬華鏡 KALEIDOSCOPE」YIRI ARTS（台北）
- 2019 「Can You Dream It? (Yes I Can.)」Kristen Lorello（ニューヨーク）
- 2018 「Hypnagogia」Pippy Houldsworth Gallery（ロンドン）
- 2017 「アートのなぞなぞー高橋コレクション展 共振するか反発するか？」
静岡県立美術館（静岡）
「MAKIKO KUDO & HIROSHI SUGITO」
Marc Foxx Gallery（ロサンゼルス）
「ICONOCLASTS: ART OUT OF THE MAINSTREAM」
Saatchi Gallery（ロンドン）
- 2015 「TIGER TIGER」Salon 94 Bowery（ニューヨーク）
「柏原由佳、川島秀明、工藤麻紀子、桑久保徹、桑原正彦、
福井篤展」8/ ART GALLERY/ Tomio Koyama Gallery（東京）
- 2014 「絵画の在りか」東京オペラシティ アートギャラリー（東京）
「美少女の美術史」青森県立美術館[静岡県立美術館、2014 /
島根県立石見美術館、2014-15 へ巡回]
「The New International 2014」Garage Museum of Contemporary Art（モスクワ）
「Queensize - Female Artists from the Olbricht Collection」
ME COLLECTORS ROOM BERLIN（ベルリン）
- 2013 「十和田市現代美術館開館 5 周年記念展 フラワーズ」
十和田市現代美術館、中心商店街ほか（青森）
「Body Language」Saatchi Gallery（ロンドン）



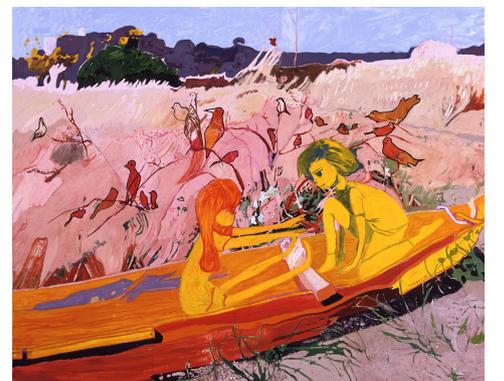
毒を育てています | 2023 | キャンバスに油彩 | 112×145.5cm
撮影：高橋健治



「市制 90 周年記念 工藤麻紀子展 花が咲いて存在に気が付くみたいな」
平塚市美術館での展示風景 | 2022 | 撮影：高橋健治



「空気に生まれかわる」
小山登美夫ギャラリーでの展示風景 | 2020 | 撮影：高橋健治



夏と冬 | 2005 | キャンバスに油彩 | 131×162 cm
高橋龍太郎コレクション蔵 | 撮影：内田芳孝

—
本展覧会に関しまして貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸いです。掲載用写真の貸出、ご質問などございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

[展覧会概要]

展覧会名	精霊に捕まって倒れる
アーティスト	青木陵子、qp、工藤麻紀子
会期	2023年11月25日(土) - 12月24日(日) 11:00-19:00 定休日：月・火・祝日
会場	TALION GALLERY 東京都豊島区目白2-2-1 B1
企画	qp、上田剛史 (TALION GALLERY ディレクター)
協力	小山登美夫ギャラリー、Take Ninagawa、みすず書房

[お問い合わせ]

TALION GALLERY 広報担当

Email: info@taliongallery.com Tel/Fax: 03-5927-9858

171-0037 東京都豊島区目白2-2-1 B1 URL: www.taliongallery.com